

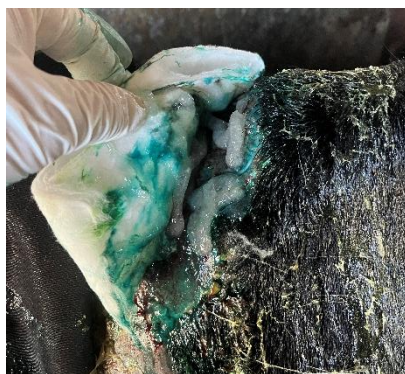
傷を治すための三原則 ～安静・清潔・保湿～

治癒の促進 牛の外傷は、蹄病、乳頭損傷、裂傷、除角後の創部、カラスによる傷、手術創など、さまざまな場面で発生します。しかし、傷の種類や部位が異なっても、治療の基本原則は共通しています。

第一は「安静」です。傷ついた組織が繰り返し刺激を受けると治癒は遅れます。蹄病では免重処置や蹄ブロックがこれにあたり、一般外傷でも患部を保護し、その後の刺激を避けるよう維持することが重要です。**第二は「清潔」**です。創部が糞尿や泥などで汚染されると、細菌感染によって治癒が妨げられます。適切な洗浄や包帯処置だけでなく、牛床や飼養環境を清潔に保つことも大切です。ただし、清潔と無菌は異なります。かつてはヨードチンキなどの強い消毒薬を傷に使用することが一般的でしたが、現在では必ずしも推奨されていません（臍帯処理などは別です）。過度な消毒や、包帯交換のたびにゴシゴシ擦ることによって生体組織まで傷つけてしまうと、かえって治癒を遅らせる場合があるため注意が必要です。

第三は「保湿」です。以前は傷を乾燥させる治療が一般的でしたが、現在では適度な湿潤環境が治癒を促進すると考えられています。創面が乾燥しすぎると細胞の移動や増殖が妨げられ、逆に湿りすぎると浸軟や感染の原因となります。目標は「ベチャベチャでもカリカリでもない、しっとりした状態」です。乾かしすぎると、分厚い痂皮（かさぶた）ができてしまい、結果、痂皮は剥がれ、再度新しい傷ができてしまいます。

薬剤や消毒剤に注目が集まりがちですが、どれほど優れた薬剤を用いても、安静・清潔・保湿が確保されなければ十分な治療効果は期待できません。傷を見たときには、「どうすれば安静にできるか」「どうすれば清潔を保てるか」「どうすれば適度な湿潤環境を維持できるか」という視点で考えてみてください。



ストールの柱で傷ついた後、カラスにもやられているような傷。
・水洗い・抗生剤塗布・保湿クリーム・ゴアテックスシート・バードネットの装着。
8日目にはきれいな肉芽が再生してきました。（経過観察中）

